

## 《巻頭言》

# 科学分析支援センターに寄せる期待

研究機構長 佐藤 勇一

昨年度で第2期中期目標期間が最終し、本年度から第3期中期目標期間が始まりました。第3期目標期間においても、研究力の強化・研究の推進、人材育成は埼玉大学の大きな柱になっております。また、産官学連携をはじめとする地域社会との様々な連携も変わらず重要な課題です。

一昨年度から埼玉県との包括協定に基づき進めております先端産業創造プロジェクトは3年目を迎えております。本年度4月に先端産業国際ラボラトリーが設置され、産学官金連携のインターフェイス拠点としての活動を開始し、地域社会とのより強い連携に向け様々な取り組みを行っております。

科学分析支援センターは、地域からの依頼分析にも応えるなどの活動を行ってきて頂いております。また、センターは学内の特に、理工系の学部、理工学研究科の教育および研究を行う際に大きなご支援を頂いてきております。現在進めております研究力強化、研究推進に関しても、その役割が大きいことは言うまでもありません。地域創生に大学として寄与するためには、地域社会の企業、他大学、研究機関の期待に応えることが出来るように様々な活動を進める必要があると考えております。したがって、科学分析支援センターの活動を今後も継続的に維持発展して頂くことは、大学の将来にとって重要です。

科学分析支援センター長、センター教職員の皆様のご尽力に感謝申し上げるとともに、埼玉大学の置かれた状況の御理解と、更なる御支援を賜りたいと考えております。最後に、センター創立以来科学分析支援センターの運営に関係してこられた教職員の皆様の、ご尽力に感謝し、引き続き一層の御力添えをお願い申し上げます。